6. 山岳図書の収集(コレクション)

－山を読む－

1974(昭和49)年、山岳図書コレクション「高嶺(たかね)文庫」を小林義正氏から引継ぐことになり、自宅の敷地に書庫を創り、5000冊を超える図書を保管するとともに、ロンドン・パリの古書店に通い、欠けている古書と新刊書を購入しコレクションを充実させていきました。1988(昭和63)年には、これらのコレクションの中から、小谷自らが選び出した図書を展示した、「山岳名著100選展―小谷コレクションより―」を開催しています。

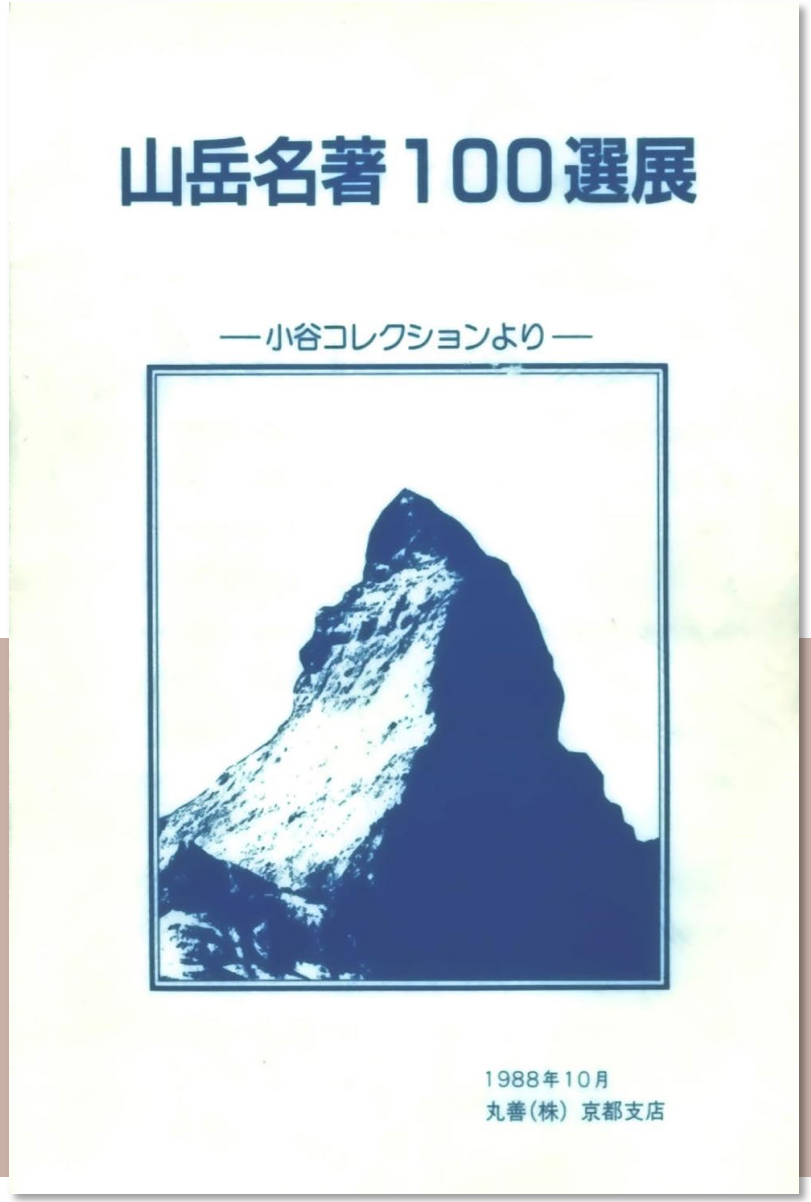
－　山を読む　－

『山なみ帖 その後』「山岳名著展始末記」より

山に関する書物は、随想・研究・技術・歴史と、数えるとおびただしい数になってくる。そしてそれらの書物を読むことによって、自分自身の山登りの行為により深みをましてくるのである。

私の山の恩師は常に、登山は足のみで登るものではないと教えておられた。山へ出かける余裕のないときは、また雨の休日など天候の悪いときなどには、家の中で山の書物を読むのがよい。

若くて山登りを志す多くの人々に少しでも山の書物に関心を持ってもらい、多くの知識を得て山登りをすること、そこにすぐれた登山家への道があるのであろう。



（参考）「岳都松本 小谷コレクション展」～信州大学の名品～図録から

小谷自慢の逸品

『INAKA』以外は1988年丸善京都支店で行われた「山岳名著100選展」に出品された。

― 山の本収集の始まり

『山の言葉』	森本次男
『樹林の山旅』	森本次男
『登山技術』	高須 茂
『日本の山々』	塚本閤治

― 高嶺文庫を譲り受ける

『山と書物』	小林義正
『Results of a Scientific Mission to India and high Asia』	シュラーギュントワイト兄弟
『秋山記行』	鈴木牧之

― コレクションの充実

『A History of Mountains』	ジョセフ.ウィルソン
『名山図譜』	谷文晁
『INAKA』	ドーント

書名及び小谷書評は「山岳名著100選展」の解説原稿に基づくもの

展示解説原稿は小谷達雄氏蔵

展示資料No.ｃｌ

『山の言葉』

森本次男（もりもと、つぎお） 1899-1965

朋文堂
1942年刊

（小谷コレクション）

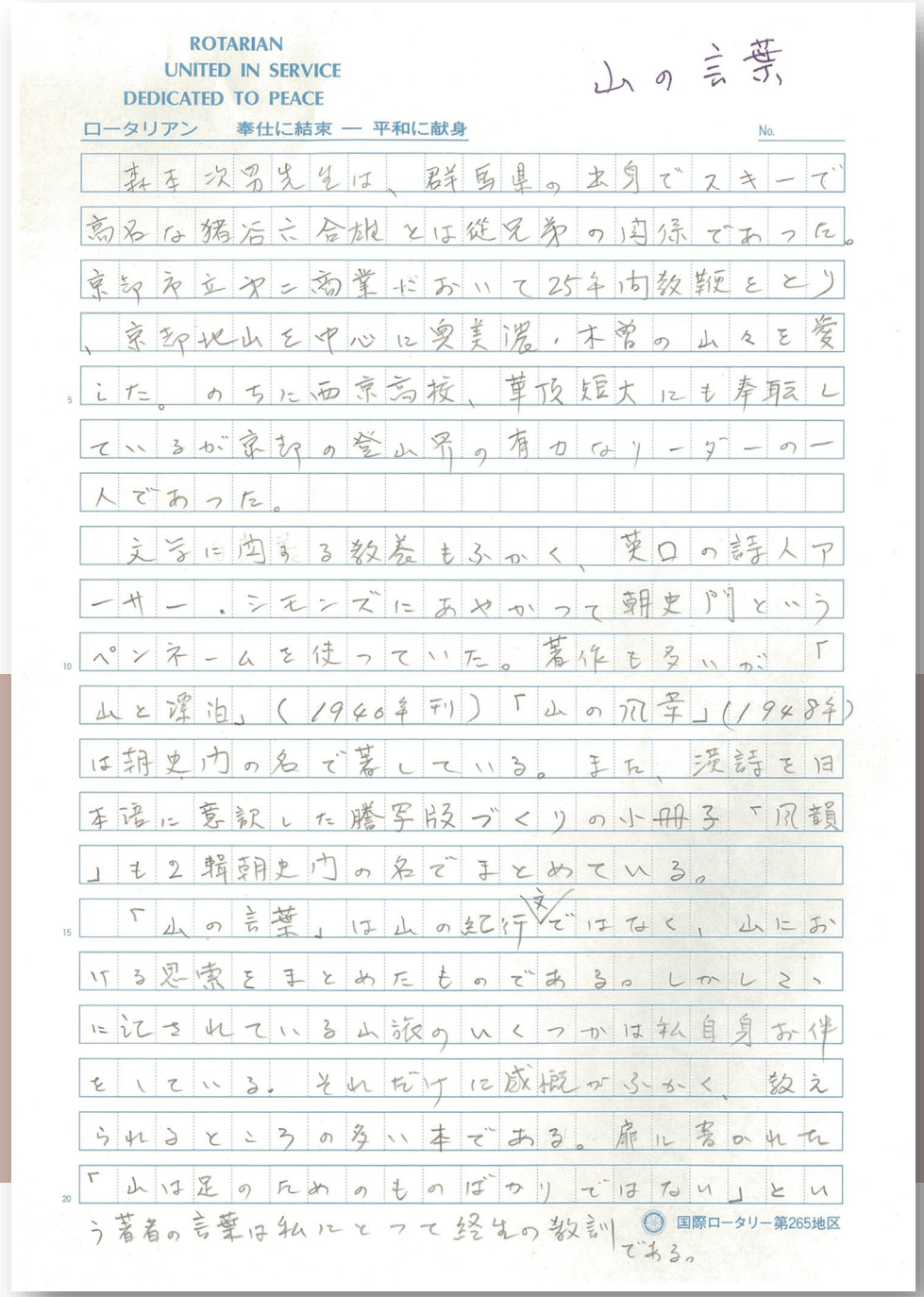
120×180[mm]

本の扉の書かれた言葉

「山を道場として学んだ数多くの中のこれはいくつかの断片である。この書が、山は足のためのものばかりではない、ということを君に教えるところがあれば幸いである。」

『京都山岳』への寄稿文より引用

展示資料No.c１　（書評：小谷隆一直筆原稿）



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE
ロータリアン　奉仕に結束 ― 平和に献身

No.

山の言葉

森本次男先生は、群馬県の出身でスキーで高名な猪谷六合雄とは従兄弟の関係であった。京都市立第二商業において25年間教鞭をとり、京都北山を中心に奥美濃・木曽の山々を愛した。のちに西京高校、華頂短大にも奉職しているが京都の登山界の有力なリーダーの一人であった。

文学に関する教養もふかく、英国の詩人アーサー・シモンズにあやかって朝史門というペンネームを使っていた。著作も多いが「山と漂泊」（1940年刊）「山の風景」（1948年刊）は朝史門の名で著している。また、漢詩を日本語に意訳した謄写版づくりの小冊子「風韻」も2輯朝史門の名でまとめている。

「山の言葉」は山の紀行文ではなく、山における思索をまとめたものである。しかしここに記されている山旅のいくつかは私自身お伴をしている。それだけに感慨がふかく、教えられるところの多い本である。扉に書かれた「山は足のためのものばかりではない」という著者の言葉は私にとって終生の教訓である。

国際ロータリー第265地区

『山の言葉』

森本 次男

小谷書評

森本次男先生は、群馬県の出身でスキーで高名な猪谷六合雄とは従兄弟の関係であった。京都市立第二商業において25年間教鞭をとり、京都北山を中心に奥美濃・木曽の山々を愛した。後に西京高校、華頂短大にも奉職しているが京都の登山界の有力なリーダーの一人であった。

文学に関する教養もふかく、英国の詩人アーサー・シモンズにあやかって朝史門というペンネームを使っていた。 著作も多いが「山と漂泊」（1940年刊）「山の風景」（1948年刊）は朝史門の名で著している。また、漢詩を日本語に意訳した謄写版づくりの小冊子「風韻」も2輯 朝史門の名でまとめている。

「山の言葉」は山の紀行文でなく、山における思索をまとめたものである。しかしここに記されている山旅のいくつかは私自身お伴をしている。それだけに感慨がふかく、教えられるところの多い本である。扉に書かれた「山は足のためのものばかりではない」という著者の言葉は私にとって終生の教訓である。

山岳名著100選

『山なみ帖』「京都北山」より

京都北山

（前略）

私の恩師に、この京都の北山と離して考えることのできない方がある。かつて京都二商と西京高校において教鞭をとっておられた森本次男先生である。先生は昭和四十年十一月病のため亡くなられたが、京都の登山界、特に北山に残された功績は偉大なものがある。

早くから登山を好まれ、いわゆる北山スクールのリーダーであったが、昭和十年に雲ヶ畑の奥に山小屋を建設された。麗杉荘というその名にふさわしい丸太の校倉造りのしょうしゃな山小屋であり、数多くの岳人が山での憩いを求めて、ここで一夜を送っている。私も京都二商の山岳部員として麗杉荘で何度となく夜をすごし、この小屋を中心にして北山を歩き廻ったものである。麗杉荘は現存しており、西京高校と紫野高校の山岳部の人たちによって管理され、利用する人も多いと聞いている。

また、先生は昭和十三年に『京都北山と丹波高原』という、北山に関する最初のガイドブックを著して広く世に北山を紹介された。現在は改版されているが、先生のこの本を手にして北山を訪れる若い人たちはあとを絶たない。山につくされた四十年間の森本先生のご功績をふりかえると、「北山の父」とよぶことが誠にふさわしいように思われる。

（後略）

京都北山麗杉荘

「ネガフィルムアルバム」より
小谷達雄氏　蔵

展示資料No.c2

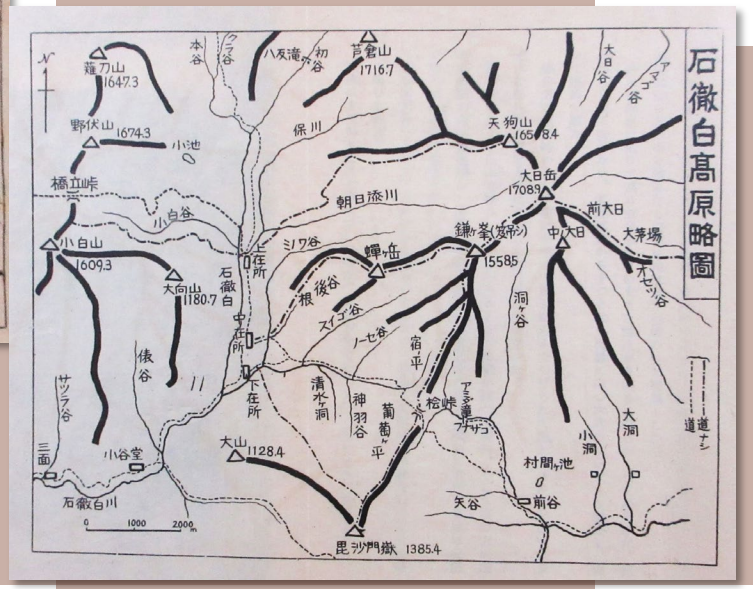
『樹林の山旅（限定）』

森本次男

サンブライト出版
1979年刊

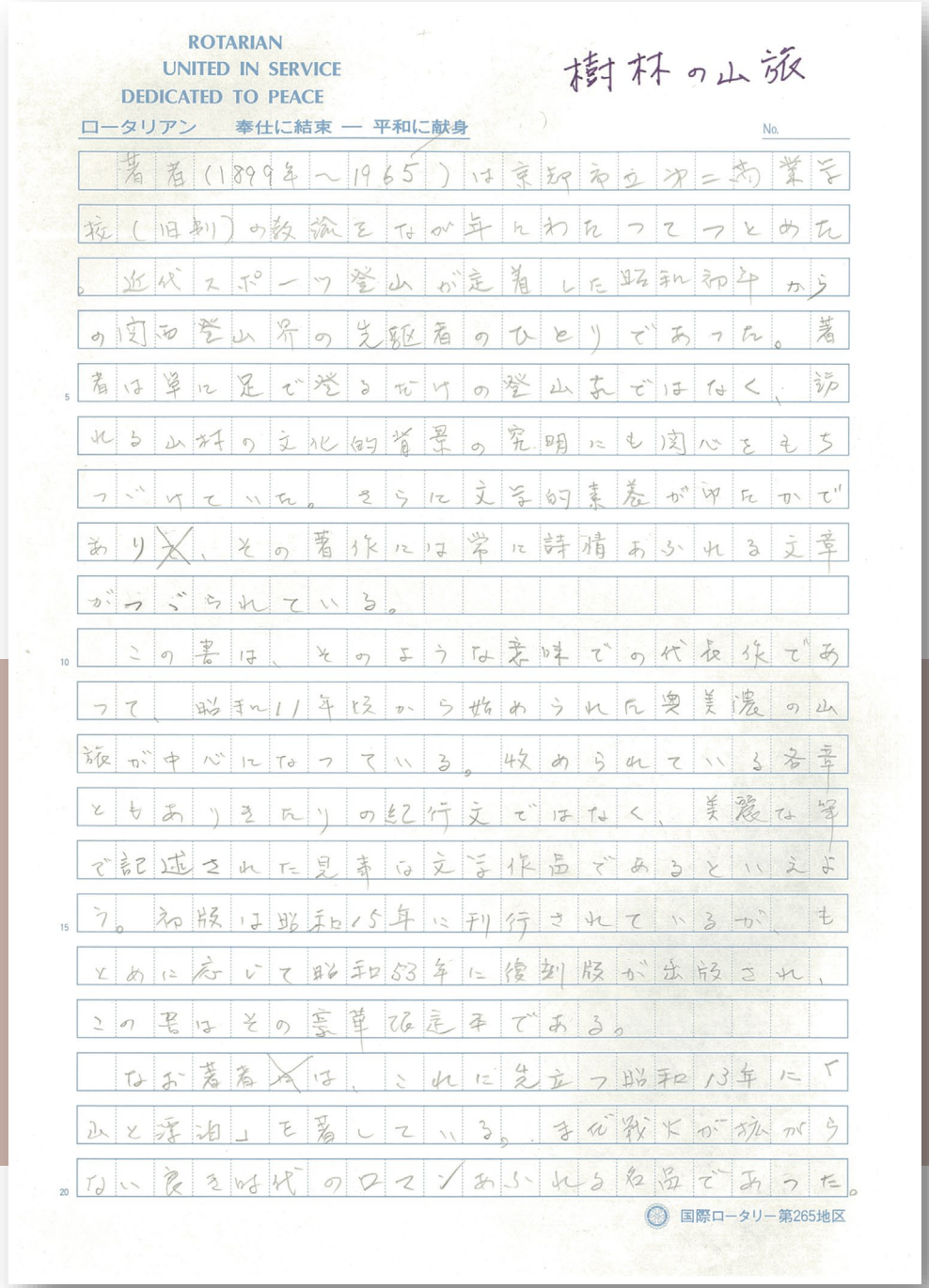
（小谷コレクション）

120×170[mm]



挿図から
奥美濃概念図（左）
石徹白高原略図（右）

展示資料No.c2 （書評：小谷隆一直筆原稿）



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE
ロータリアン　奉仕に結束 ― 平和に献身

No.

樹林の山旅

著者（1899年～1965）は京都市立第二商業学校（旧制）の教諭をなが年にわたってつとめた。近代スポーツ登山が定着した昭和初年からの関西登山界の先駆者のひとりであった。著者は単に足で登るだけの登山家ではなく、訪れる山村の文化的背景の究明にも関心をもちつづけていた。さらに文学的素養がゆたかであり、その著作には常に詩情あふれる文章がつづられている。

この書は、そのような意味での代表作であって、昭和11年頃から始められた奥美濃の山旅が中心になっている。収められている各章ともありきたりの紀行文ではなく、美麗な筆で記述された見事な文学作品であるといえよう。初版は昭和15年に刊行されているが、もとめに応じて昭和53年に復刻版が出版され、この書はその豪華限定本である。

なお著者は、これに先立つ昭和13年に「山と漂泊」を著している。まだ戦火が拡がらない良き時代のロマンあふれる名品であった。

国際ロータリー第265地区

『樹林の山旅』
森本次男

小谷書評

著者（1899-1965）は京都市立第二商業学校（旧制）の教諭をなが年にわたってつとめた。近代スポーツ登山が定着した昭和初年からの関西登山界の先駆者のひとりであった。著者は単に足で登るだけの登山家ではなく、訪れる山村の文化的背景の究明にも関心をもちつづけていた。さらに文学的素養がゆたかであり、その著作には常に詩情あふれる文章がつづられている。

この書は、そのような意味での代表作であって、昭和11年頃から始められた奥美濃の山旅が中心になっている。収められている各章ともありきたりの紀行文ではなく、美麗な筆で記述された見事な文学作品であるといえよう。初版は昭和15年に刊行されているが、もとめに応じて昭和53年に復刻版が出版され、この書はその豪華限定本である。

なお著者は、これに先立つ昭和13年に「山と漂泊」を著している。まだ戦火が拡がらない良き時代のロマンあふれる名品であった。

山岳名著100選

『山なみ帖 その後』「石徹白懐古」ほかで取り上げられた山の恩師であった森本次男の代表作。小谷は恩師の作品を多数収集している。

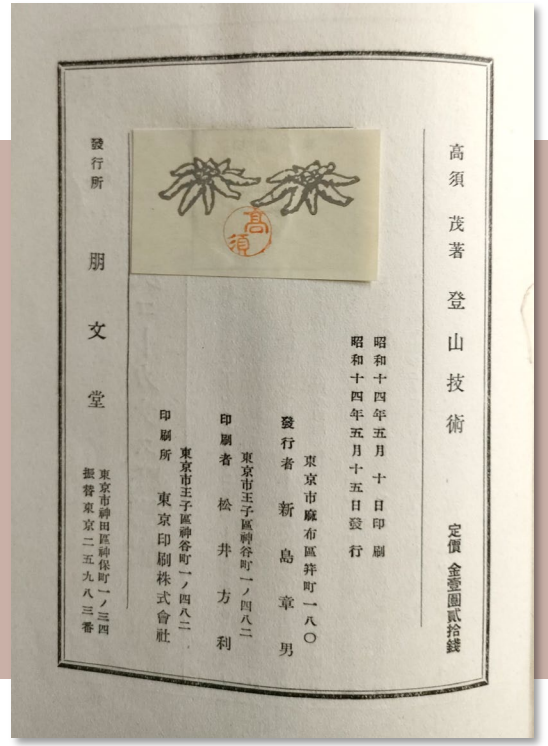
展示資料No.c3

『登山技術』

高須 茂（たかす、しげる）　1908-1979

朋文堂
1939年刊

（小谷コレクション）



高須茂著　登山技術　定價金壹圓貳拾錢

昭和十四年五月十日印刷
昭和十四年五月十五日發行

發行所　朋文堂
東京市神田區神保町一ノ三四
振替東京二五九八三番

發行者　新島章男
東京市麻布區笄町一八〇

印刷者　松井方利
東京市王子區神谷町一ノ四八二

印刷所　東京印刷株式會社
東京市王子區神谷町一ノ四八二

登山技術

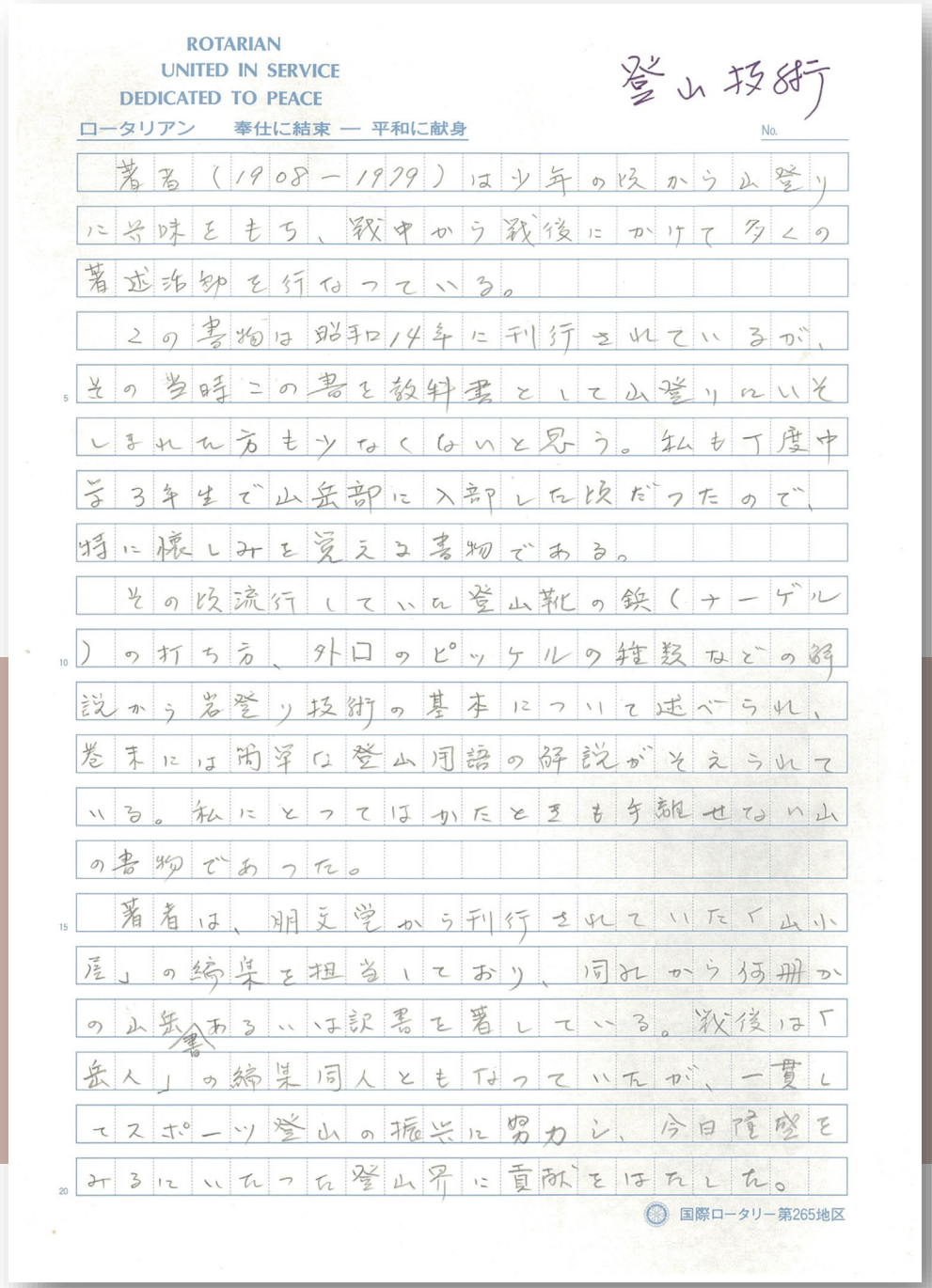
バランスとリズムによる新らしい登山技術書

本書の特徴ともいふべき點は、如何なるハイカーにとつてもアルピニストにとつても重要でありながら、案外にかへりみられない《歩き方》についての研究から出發し、そのバランスとリズムのもつ秘密を《岩登り》や《氷上技術》の範圍にまで應用進展せしめたところにある。

本書を一讀すれば、草山歩きにさへ登山技術の必要なことがハツキリとうなづけるであらう。

140×190[mm]

展示資料No.c3 （書評：小谷隆一直筆原稿）



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE
ロータリアン　奉仕に結束 ― 平和に献身

No.

登山技術

著者（1908－1979）は少年の頃から山登りに興味をもち、戦中から戦後にかけて多くの著述活動を行なっている。

この書物は昭和14年に刊行されているが、その当時この書を教科書として山登りにいそしまれた方も少なくないと思う。私も丁度中学3年生で山岳部に入部した頃だったので、特に懐しみを覚える書物である。

その頃流行していた登山靴の鋲（ナーゲル）の打ち方、外国のピッケルの種類などの解説から岩登り技術の基本について述べられ、巻末には簡単な登山用語の解説がそえられている。私にとってはかたときも手離せない山の書物であった。

著者は、朋文堂から刊行されていた「山小屋」の編集を担当しており、同社から何冊かの山岳書あるいは訳書を著している。戦後は「岳人」の編集同人ともなっていたが、一貫してスポーツ登山の振興に努力し、今日隆盛をみるにいたった登山界に貢献をはたした。

国際ロータリー第265地区

『登山技術』

高須 茂

小谷書評

著者（1908-1979）は少年の頃から山登りに興味をもち、戦中から戦後にかけて多くの著述活動を行なっている。

この書物は昭和14年に刊行されているが、その当時この書を教科書として山登りにいそしまれた方も少なくないと思う。私も丁度中学3年生で山岳部に入部した頃だったので、特に懐かしみを覚える書物である。

その頃流行していた登山靴の鋲（ナーゲル）の打ち方、外国のピッケルの種類などの解説から岩登り技術の基本について述べられ、巻末には簡単な登山用語の解説がそえられている。私にとってはかたときも手離せない山の書物であった。

著者は、朋文堂から刊行されていた「山小屋」の編集を担当しており、同社から何冊かの山岳書あるいは訳書を著している。戦後は「岳人」の編集同人ともなっていたが、一貫してスポーツ登山の振興に努力し、今日隆盛をみるにいたった登山界に貢献をはたした。

山岳名著100選

『山なみ帖』「山の道具今昔」 ほかで紹介されている。

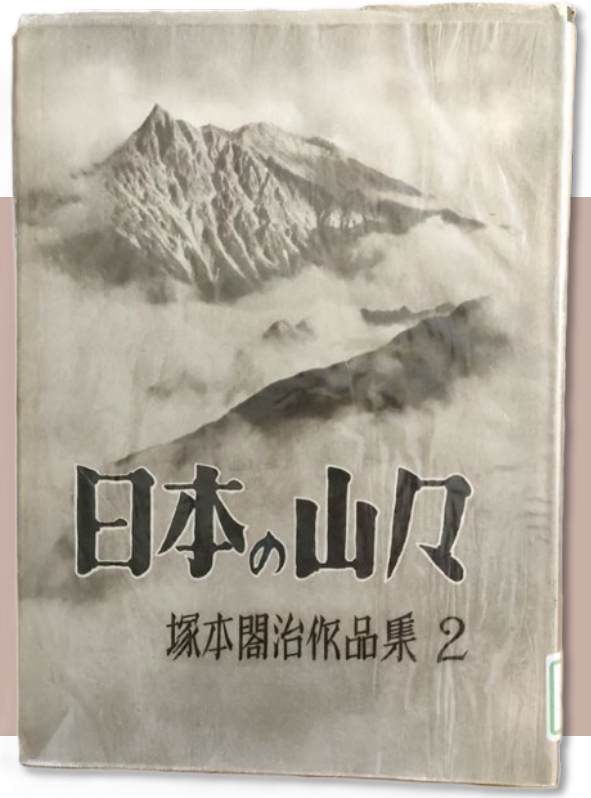
展示資料No. c4, c5

『日本の山々』

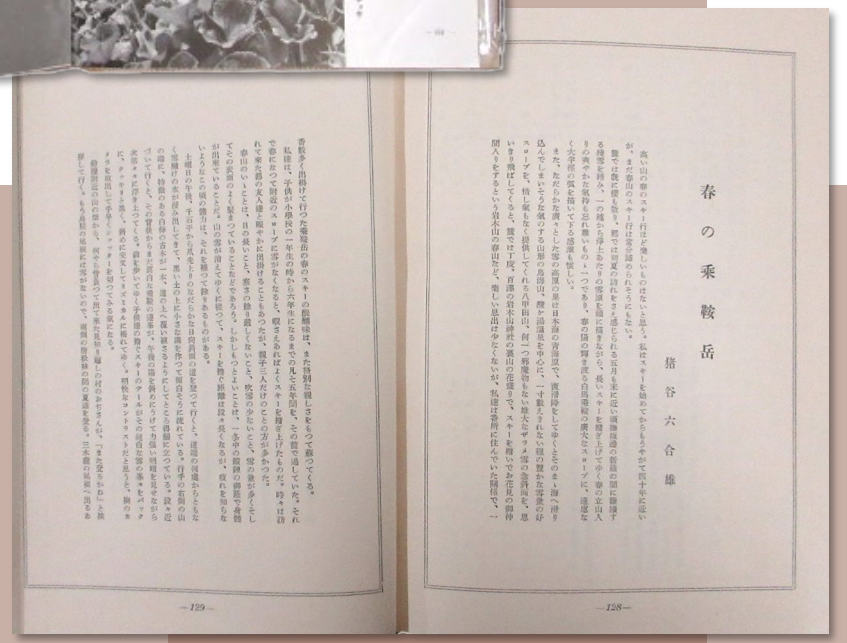
塚本 閤治（つかもと、こうじ） 1896-1963

山と渓谷社
作品集1･･･1941年刊
作品集2･･･1950年刊

（小谷コレクション）



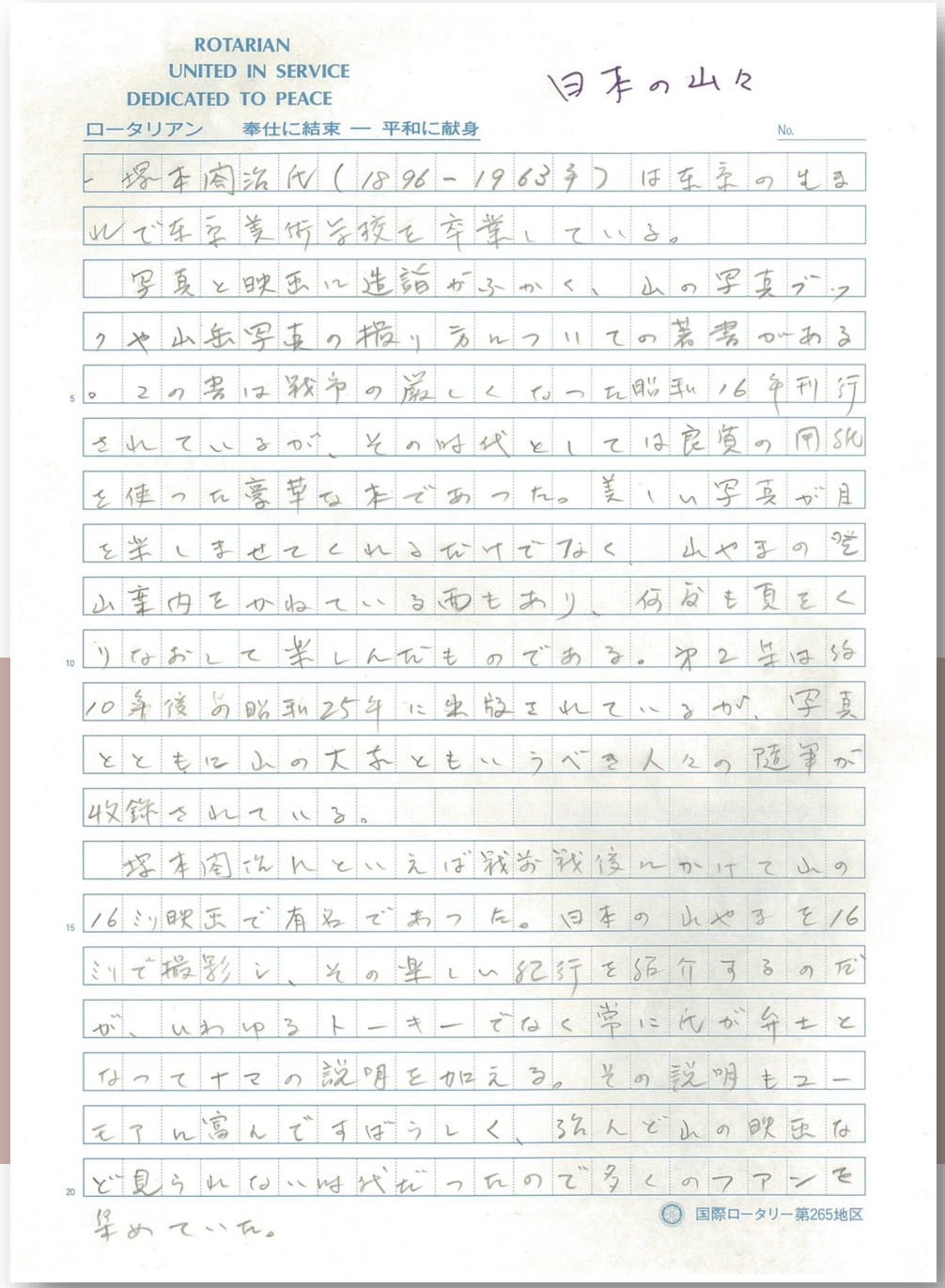
140×190[mm]



日本の山々 あとがき
「春の乗鞍岳」 猪谷六合雄

※ 猪谷六合雄は森本次郎の従弟

展示資料No.c4,c5 （書評：小谷隆一直筆原稿）



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE
ロータリアン　奉仕に結束 ― 平和に献身

日本の山々

No.

塚本閤治氏（1896－1963年）は東京の生まれで東京美術学校を卒業している。

写真と映画に造詣がふかく、山の写真ブックや山岳写真の撮り方についての著書がある。この書は戦争の厳しくなった昭和16年刊行されているが、その時代としては良質の用紙を使った豪華な本であった。美しい写真が目を楽しませてくれるだけでなく、山やまの登山案内をかねている面もあり、何度も頁をくりなおして楽しんだものである。第2集は約10年後の昭和25年に出版されているが、写真とともに山の大家ともいうべき人々の随筆が収録されている。

塚本閤治氏といえば戦前戦後にかけて山の16ミリ映画で有名であった。日本の山やまを16ミリで撮影し、その楽しい紀行を紹介するのだが、いわゆるトーキーでなく常に氏が弁士となってナマの説明を加える。その説明もユーモアに富んですばらしく、殆んど山の映画など見られない時代だったので多くのファンを集めていた。

国際ロータリー第265地区

『日本の山々』

塚本 閤治

小谷書評

塚本　閤治氏（1896-1963年）は東京の生まれで東京美術学校を卒業している。

写真と映画の造形がふかく、山の写真ブックや山岳写真の撮り方についての著書がある。この書は戦争の厳しくなった昭和16年刊行されているが、その時代としては良質の用紙を使った豪華な本であった。美しい写真が目を楽しませてくれるだけでなく、山やまの登山案内を兼ねている面もあり、何度も頁をくりなおして楽しんだものである。第2集は約10年後の昭和25年に出版されているが、写真とともに山の大家ともいうべき人々の随筆が収録されている。

塚本閤治氏といえば戦前戦後にかけて山の16ミリ映画で有名であった。日本の山やまを16ミリで撮影し、その楽しい紀行を紹介するのだが、いわゆるトーキーでなく常に氏が弁士となってナマの説明を加える。その説明もユーモアに富んですばらしく、殆んど山の映画など見られない時代だったので多くのファンを集めていた。

山岳名著100選

『山なみ帖』「塚本閤治氏の想い出」ほかで引用されている。

「高嶺（たかね）文庫」を譲り受ける

小林義正氏と「高嶺文庫」

小林 義正（こばやし、よしまさ）　1906-1975
東京生まれ
日本山岳会所属（図書委員長を務める）
丸善㈱勤務

年少の頃より山に親しみ、田部重治の「日本アルプスと秩父巡礼」に啓発されて山岳図書に興味をいだく。丸善に勤務の傍ら、日本の古典から現代に至るまで、またアルプス、ヒマラヤに関する文献を蒐集、研究した。著書に「山と書物」「続・山と書物」がある。

その蔵書は「高嶺文庫」として知られ、日本山岳会開催の“山岳図書を語るタベ　1971年3月23日”の講演にて富士山に関する江戸時代の書物を紹介するなど希少な資料も数多く所蔵していた。

1974年に小谷氏が小林氏から購入した「高嶺文庫」の書物は、洋書と和綴じ本が其々500冊余、雑誌類を含めると5000冊を超えた。

出典:コトバンク『小林義正』<https://x.gd/dFLRA>
公益財団法人日本山岳会「山岳図書を語るタベ」
<https://jacl.or.jp/about/iinkai/tosyo_iinkai/2011012416086.html>
『山なみ帖その後』「山の書物の楽しみ」

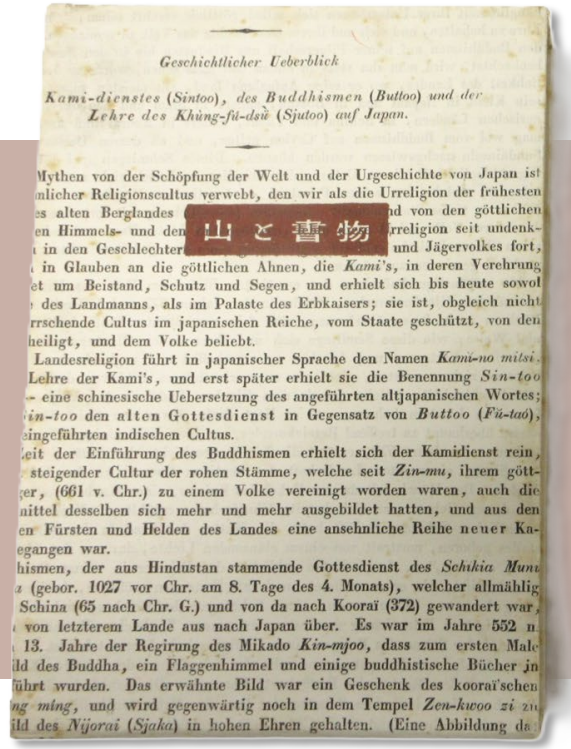
展示資料No. c6

『山と書物』 正・続 愛蔵版

小林 義正（こばやし、よしまさ） 1906-1975

築地書館
正 1958年刊
続 1960年刊

（小谷コレクション）



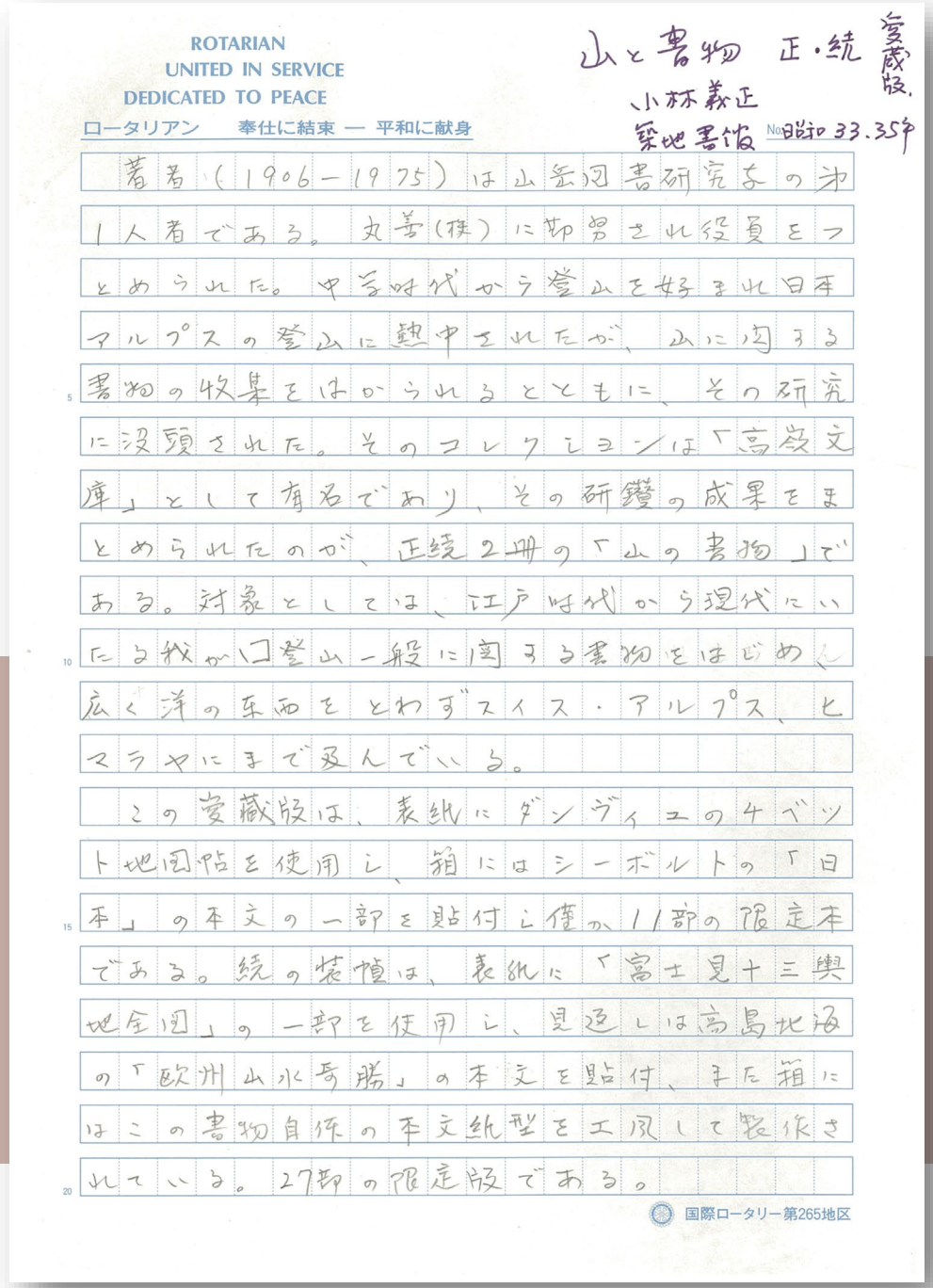
Geschichtlicher Ueberblick

Kami-dienstes (Sintoo), des Buddhismen (Buttoo) und der Lehre des Khung-fû-dsù (Sjutoo) auf Japan.

Mythen von der Schöpfung der Welt und der Urgeschichte von Japan ist
nlicher Religionscultus verwebt, den wir als die Urreligion der frühesten
es alten Berglandes
山と書物
nd von den göttlichen
en Himmels- und den
rreligion seit undenk-
in den Geschlechter
und Jägervolkes fort,
in Glauben an die göttlichen Ahnen, die *Kami's*, in deren Verehrung
et um Beistand, Schutz und Segen, und erhielt sich bis heute sowol
des Landmanns, als im Palaste des Erbkaisers; sie ist, obgleich nicht
rrschende Cultus im japanischen Reiche, vom Staate geschützt, von den
heiligt, und dem Volke beliebt.
Landesreligion führt in japanischer Sprache den Namen *Kami-no mitsi*,
Lehre der Kami's, und erst später erhielt sie die Benennung *Sin-too*
– eine schinesische Uebersetzung des angeführten altjapanischen Wortes;
in-too den alten Gottesdienst in Gegensatz von *Buttoo* (*Fû-taô*),
eingeführten indischen Cultus.
eit der Einführung des Buddhismen erhielt sich der Kamidienst rein,
steigender Cultur der rohen Stämme, welche seit *Zin-mu*, ihrem gött-
er, (661 v. Chr.) zu einem Volke vereinigt worden waren, auch die
nittel desselben sich mehr und mehr ausgebildet hatten, und aus den
en Fürsten und Helden des Landes eine ansehnliche Reihe neuer Ka-
egangen war.
hismen, der aus Hindustan stammende Gottesdienst des *Schâkia Muni*
(gebor. 1027 vor Chr. am 8. Tage des 4. Monats), welcher allmählig
Schina (65 nach Chr. G.) und von da nach Kooraï (372) gewandert war,
von letzterem Lande aus nach Japan über. Es war im Jahre 552 n.
13. Jahre der Regirung des Mikado *Kin-mjoo*, dass zum ersten Male
ld des Buddha, ein Flaggenhimmel und einige buddhistische Bücher in
ührt wurden. Das erwähnte Bild war ein Geschenk des koorai'schen
ng ming, und wird gegenwärtig noch in dem Tempel *Zen-kwoo zi* zu
ild des *Nijorai* (*Sjaka*) in hohen Ehren gehalten. (Eine Abbildung de

150×220[mm]

150×220[mm]



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE
ロータリアン　奉仕に結束 — 平和に献身

山と書物　正・続　愛蔵版
小林義正
築地書館　No昭和33.35円

著者（1906－1975）は山岳図書研究家の第一人者である。丸善(株)に勤務され役員をつとめられた。中学時代から登山を好まれ日本アルプスの登山に熱中されたが、山に関する書物の収集をはかられるとともに、その研究に没頭された。そのコレクションは「高嶺文庫」として有名であり、その研鑽の成果をまとめられたのが、正続2冊の「山の書物」である。対象としては、江戸時代から現代にいたる我が国登山一般に関する書物をはじめ、広く洋の東西をとわずスイス・アルプス、ヒマラヤにまで及んでいる。

この愛蔵版は、表紙にダンヴィユのチベット地図帖を使用し、箱にはシーボルトの「日本」の本文の一部を貼付し僅か11部の限定本である。続の装幀は、表紙に「富士見十三輿地全図」の一部を使用し、見返しは高島北海の「欧州山水奇勝」の本文を貼付、また箱にはこの書物自体の本文紙型を工夫して製作されている。27部の限定版である。

国際ロータリー第265地区

『山と書物』 正・続 愛蔵版

小林 義正

小谷書評

著者（1906-1975）は山岳図書研究家の第一人者である。丸善㈱に勤務され役員をつとめられた。中学時代から登山を好まれ日本アルプスの登山に熱中されたが、山に関する書物の収集をはかられるとともに、その研究に没頭された。そのコレクションは「高嶺文庫」として有名であり、その研鑽の成果をまとめられたのが、正続2冊の「山の書物」である。対象としては、江戸時代から現代にいたる我が国登山一般に関する書物をはじめ、広く洋の東西を問わずスイス・アルプス、ヒマラヤにまで及んでいる。

この愛蔵版は、表紙にダンヴィユのチベット地図帖を使用し、箱にはシーボルトの「日本」の本文の一部を貼付し僅か11部の限定本である。続の装幀は、表紙に「富士見十三輿地全図」の一部を使用し、見返しは高島北海の「欧州山水奇勝」の本文を貼付、また箱にはこの書物自体の本文紙型を工夫して製作されている。27部の限定版である。

山岳名著100選

展示資料No.c7

『Atlas of India and High Asia
(Results of a Scientific Mission to India and high Asia)』

Schlagintweit Brothers
Hermann、Adolf、Rbert
F.A. Brockhaus Trübner, 1861-1866

（小谷コレクション）

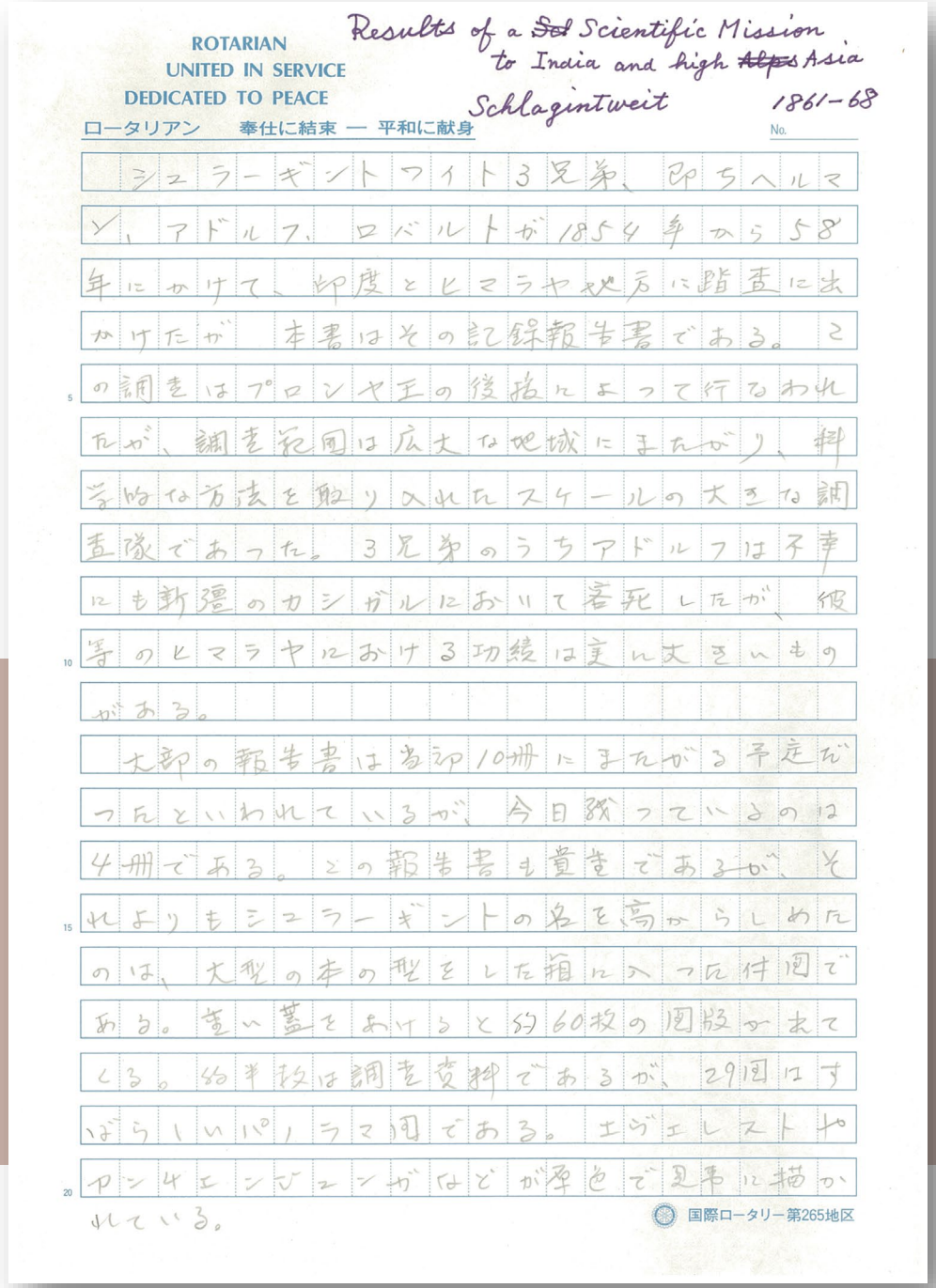
『Results of a Scientific Mission to India and high Asia』
『インド及び高地アジアの科学踏査報告書』

（報告書の附図）パノラマ図「エヴェレスト」1855 年

小林義正氏収集

図版 縦93.7×横62.8 [cm]
箱 縦98.5×横72.0×高さ9 [cm]

展示資料No.c7 （書評：小谷隆一直筆原稿）



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE
ロータリアン　奉仕に結束 ― 平和に献身

Results of a ~~Sci~~ Scientific Mission to India and high ~~Alps~~ Asia
Schlagintweit　1861-68

No.

シュラーギントワイト3兄弟、即ちヘルマン、アドルフ、ロバルトが1854年から58年にかけて、印度とヒマラヤ地方に踏査に出かけたが　本書はその記録報告書である。この調査はプロシヤ王の後援によって行われたが、調査範囲は広大な地域にまたがり、科学的な方法を取り入れたスケールの大きな調査隊であった。3兄弟のうちアドルフは不幸にも新疆のカシガルにおいて客死したが、彼等のヒマラヤにおける功績は実に大きいものがある。

大部の報告書は当初10冊にまたがる予定だったといわれているが、今日残っているのは4冊である。この報告書も貴重であるが、それよりもシュラーギントの名を高からしめたのは、大型の本の型をした箱に入った付図である。重い蓋をあけると約60枚の図版が出てくる。約半数は調査資料であるが、29図はすばらしいパノラマ図である。エヴェレストやカンチェンジュンガなどが原色で見事に描かれている。

国際ロータリー第265地区

『Results of a Scientific Mission to India and high Asia 』

Schlagintweit　Brothers
Hermann、Adolf、Rbert

小谷書評

シュラーギントワイト3兄弟、即ちヘルマン、アドルフ、ロバルトが1854年から58年にかけて、印度とヒマラヤ地方に踏査に出かけたが、本書はその記録報告書である。この調査はプロシヤ王の後援によって行われたが、調査範囲は広大な地域にまたがり、科学的な方法を取り入れたスケールの大きな調査隊であった。3兄弟のうちアドルフは不幸にも新疆のカシガルにおいて客死したが、彼等のヒマラヤにおける功績は実に大きいものがある。

大部の報告書は当初10冊にまたがる予定だったといわれているが、今日残っているのは4冊である。この報告書も貴重であるが、それよりもシュラーギントの名を高からしめたのは、大型の本の型をした箱に入った付図である。重い蓋をあけると約60枚の図版が出てくる。約半数は調査資料であるが、29図はすばらしいパノラマ図である。エヴェレストやカンチェンジュンガなどが原色で見事に描かれている。

山岳名著100選

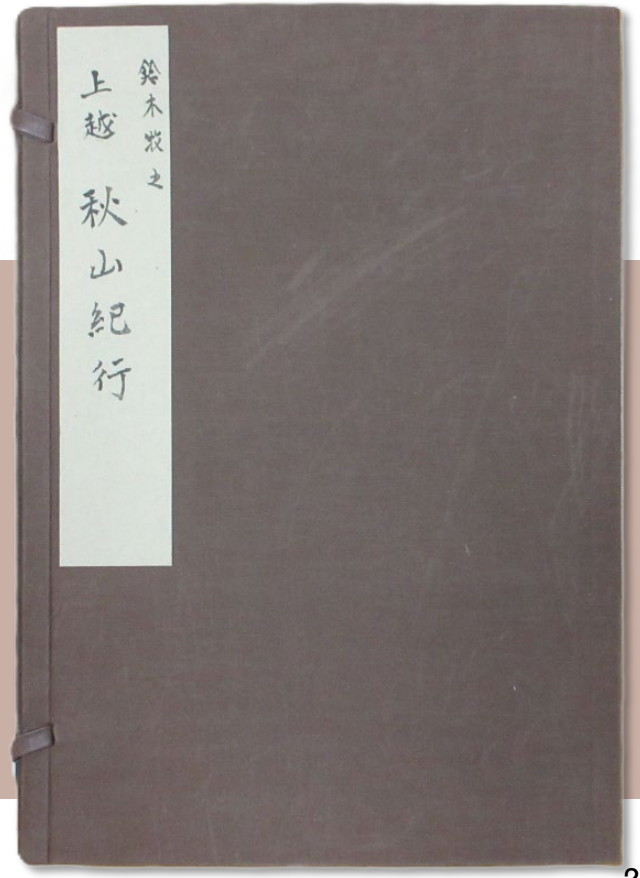
展示資料No.c8

『秋山記行』 上、下

鈴木 牧之（すずき、ぼくし） 1770-1842

1829年刊

（小谷コレクション）

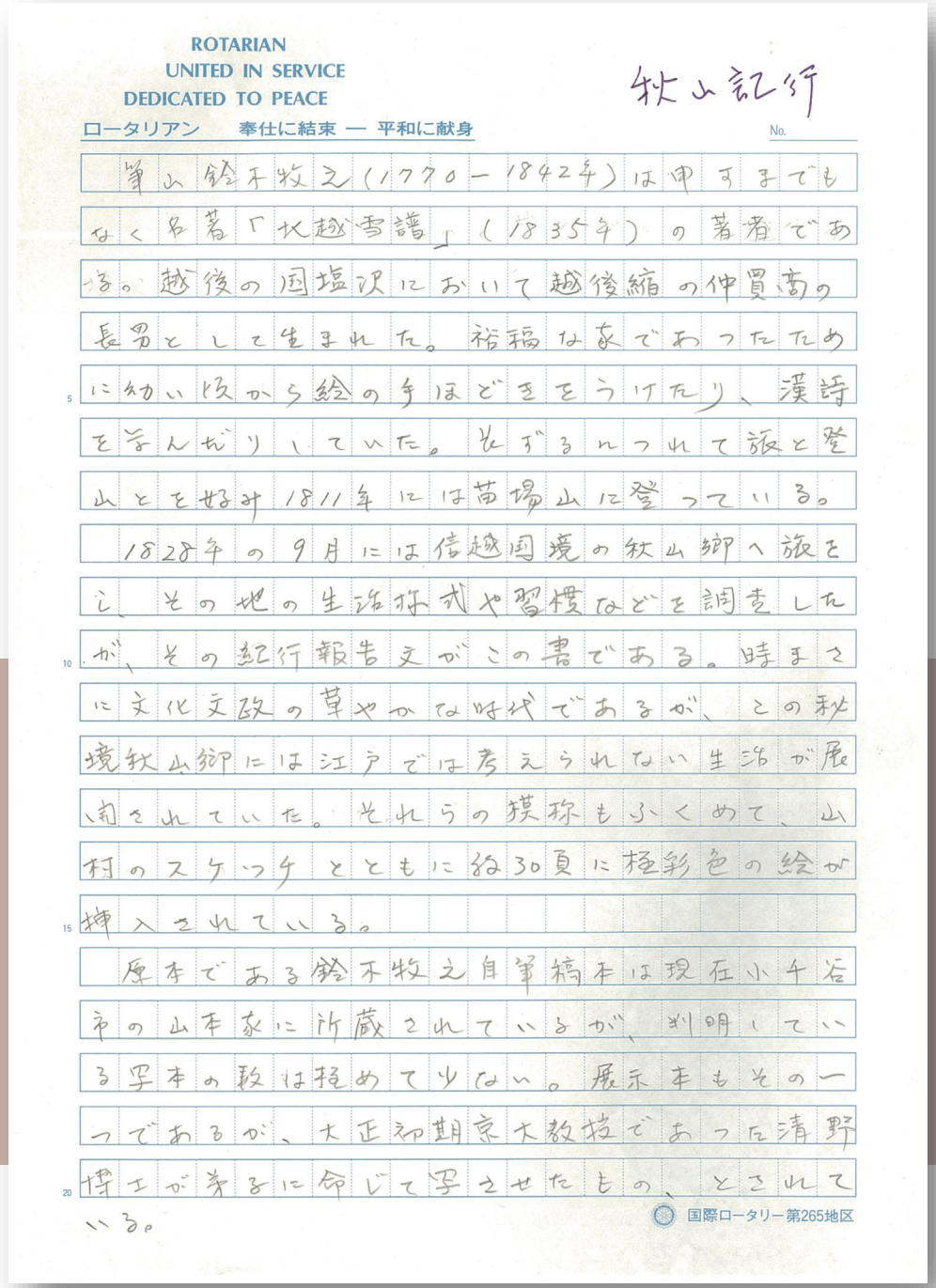


210×300[mm]

『秋山記行』の書名について

『山なみ帖 その後』「写本『秋山記行』のご対面」〈付記〉「記行」か「紀行」か 書評において言及している。

展示資料No.c8 （書評：小谷隆一直筆原稿）



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE
ロータリアン　奉仕に結束 ― 平和に献身

秋山記行

No.

筆山鈴木牧之（1770－1842年）は申すまでもなく名著「北越雪譜」（1835年）の著者である。越後の国塩沢において越後縮の仲買商の長男として生まれた。裕福な家であったために幼い頃から絵の手ほどきをうけたり、漢詩を学んだりしていた。長ずるにつれて旅と登山とを好み、1811年には苗場山に登っている。

1828年の9月には信越国境の秋山郷へ旅をし、その地の生活様式や習慣などを調査したが、その紀行報告文がこの書である。時まさに文化文政の華やかな時代であるが、この秘境秋山郷には江戸では考えられない生活が展開されていた。それらの模様もふくめて、山村のスケッチとともに約30頁に極彩色の絵が挿入されている。

原本である鈴木牧之自筆稿本は現在小千谷市の山本家に所蔵されているが、判明している写本の数は極めて少ない。展示本もその一つであるが、大正初期京大教授であった清野博士が弟子に命じて写させたもの、とされている。

国際ロータリー第265地区

『秋山記行』
鈴木 牧之

小谷書評

筆山鈴木牧之（1770-1842年）は申すまでもなく名著「北越雪譜」（1835年）の著者である。越後の国塩沢において越後縮の仲買商の長男として生まれた。裕福な家であったために幼い頃から絵の手ほどきをうけたり、漢詩を学んだりしていた。長ずるにつれて旅と登山とを好み、1811年には苗場山に登っている。

1828年の9月には信越国境の秋山郷へ旅をし、その地の生活様式や習慣などを調査したが、その紀行報告文がこの書である。時まさに文化文政の華やかな時代であるが、この秘境秋山郷には江戸では考えられない生活が展開されていた。それらの模様もふくめて、山村のスケッチとともに約30頁に極彩色の画が挿入されている。

原本である鈴木牧之自筆原稿は現在小千谷市の山本家に所蔵されているが、判明している写本の数は極めて少ない。展示本もその一つであるが、大正初期京大教授であった清野博士が弟子に命じて写させたもの、とされている。

山岳名著100選

『山なみ帖 その後』「写本『秋山記行』のご対面」には1991年の冬季国体（新潟県塩沢町会場）において京都選手団長であった小谷が鈴木牧之記念館まで携えて行き、所蔵品と比較調査したことが詳しく記されている。ほかに表題の”記”と“紀“の相違についても考察している。

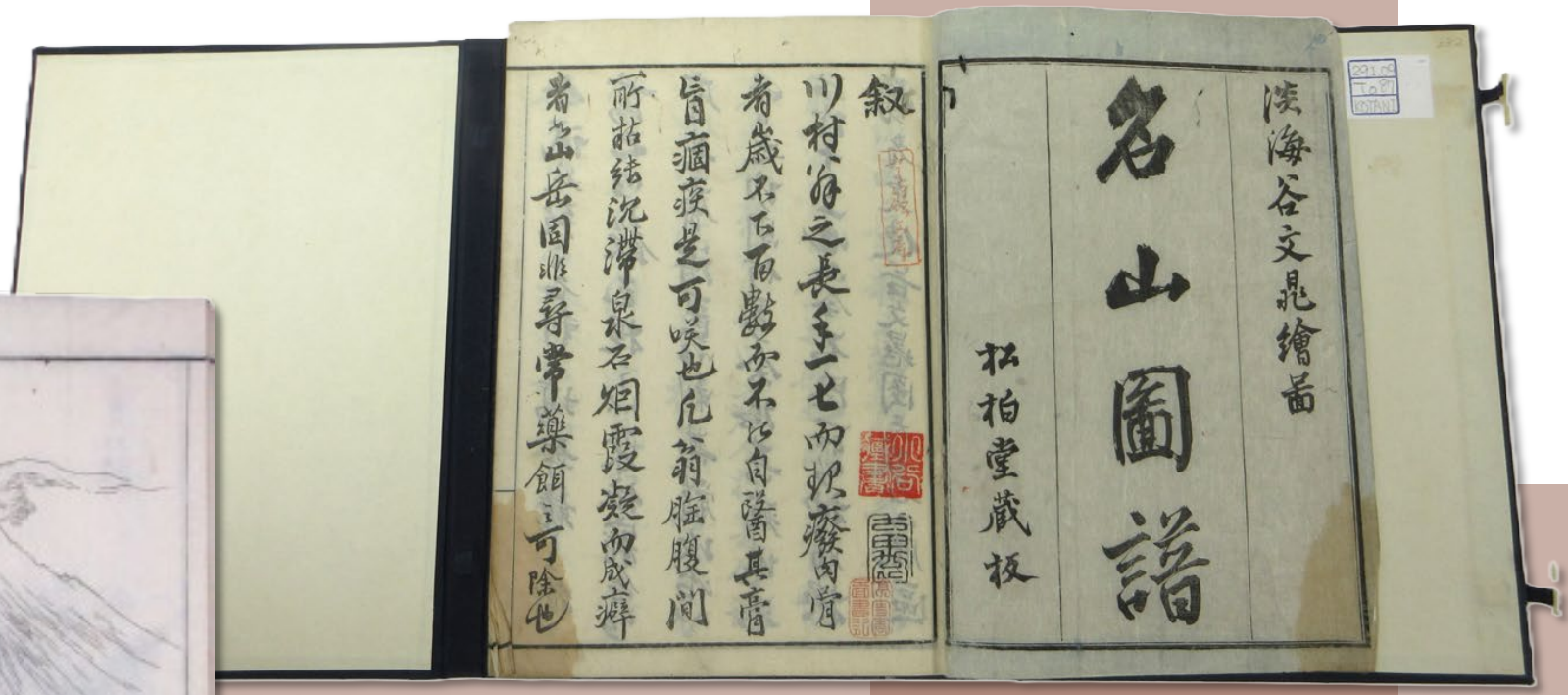
展示資料No.c9

『名山図譜』

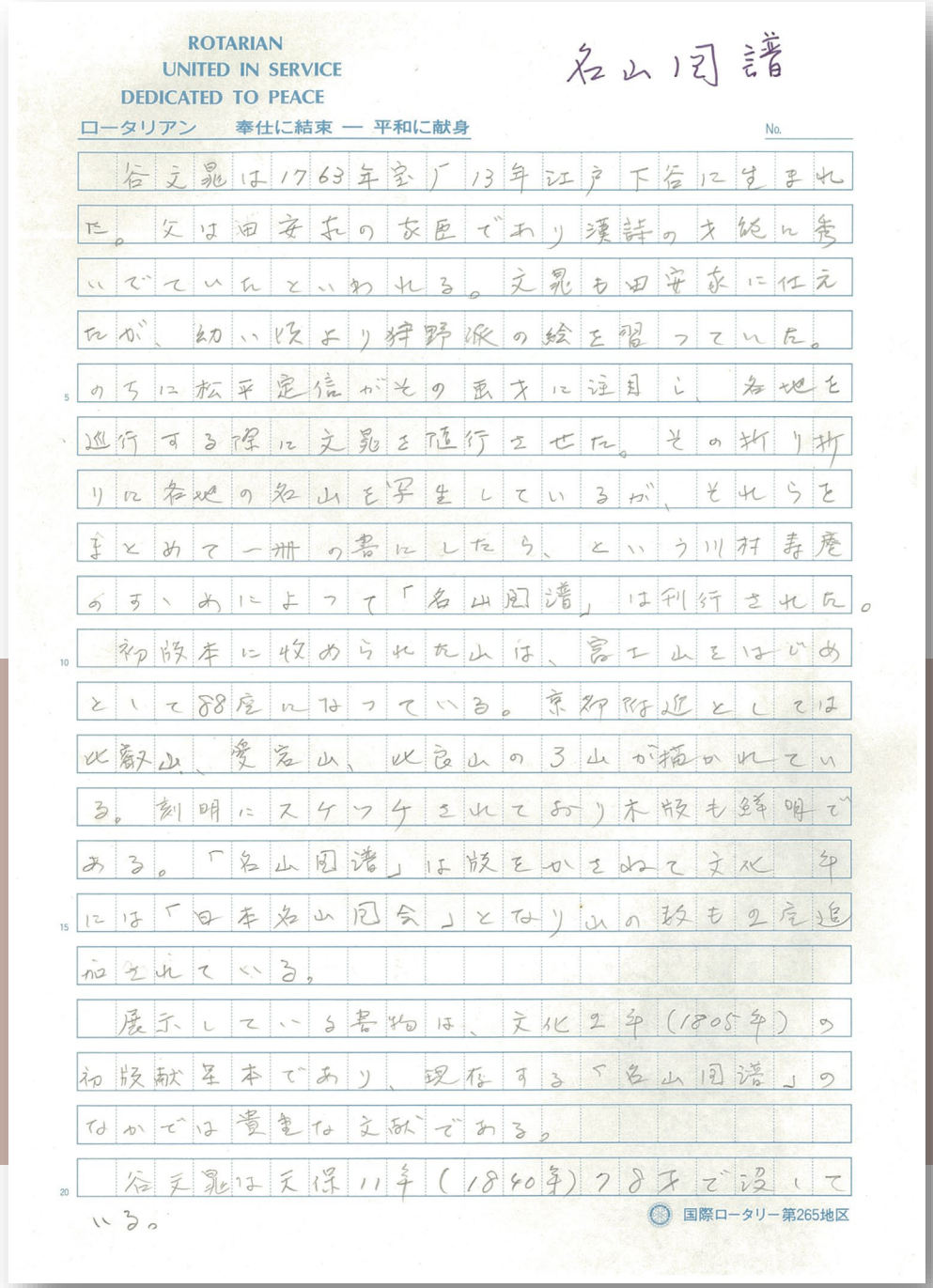
谷文晁（たに、ぶんちょう） 1763-1840

松柏堂蔵板
文化2年（1805年）

（小谷コレクション）



190×270[mm]



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン　奉仕に結束 ― 平和に献身

No.

名山図譜

谷文晁は1763年宝暦13年江戸下谷に生まれた。父は田安家の家臣であり漢詩の才能に秀でていたといわれる。文晁も田安家に仕えたが、幼い頃より狩野派の絵を習っていた。のちに松平定信がその画才に注目し、各地を巡行する際に文晁を随行させた。その折り折りに各地の名山を写生しているが、それらをまとめて一冊の書にしたら、という川村寿庵のすすめによって「名山図譜」は刊行された。

初版本に収められた山は、富士山をはじめとして88座になっている。京都附近としては比叡山、愛宕山、比良山の3山が描かれている。刻明にスケッチされており木版も鮮明である。「名山図譜」は版をかさねて文化9年には「日本名山図会」となり山の数も2座追加されている。

展示している書物は、文化2年（1805年）の初版献呈本であり、現存する「名山図譜」のなかでは貴重な文献である。

谷文晁は天保11年（1840年）、78才で没している。

国際ロータリー第265地区

『名山図譜』
谷文晁

小谷書評

谷文晁は1763年宝暦13年江戸下谷に生まれた。父は田安家の家臣であり漢詩の才能に秀でていたといわれる。文晁も田安家に仕えたが、幼い頃より狩野派の絵を習っていた。のちに松平定信がその画才に注目し、各地を巡幸する際に文晁を随行させた。その折り折りに各地の名山を写生しているが、それらをまとめて一冊の書にしたら、という川村寿庵のすすめによって「名山図譜」は刊行された。

初版本に収められた山は富士山をはじめとして88座になっている。京都附近としては比叡山、愛宕山、比良山の3山が描かれている。刻明にスケッチされており木版も鮮明である。「名山図譜」は版をかさねて文化9年には「日本名山図会」となり山の数も2座追加されている。

展示している書物は、文化2年（1805年）の初版献呈本であり、現存する「名山図譜」のなかでは貴重な文献である。谷文晁は天保11年（1840年）、78才で没している。

山岳名著100選

『山なみ帖』「パリの『日本名山図会』」には1977年パリの骨董市にて『日本名山図会』を競り落としたことが記されている。
また、『History of Mountain』と対比して希少性について述べている。

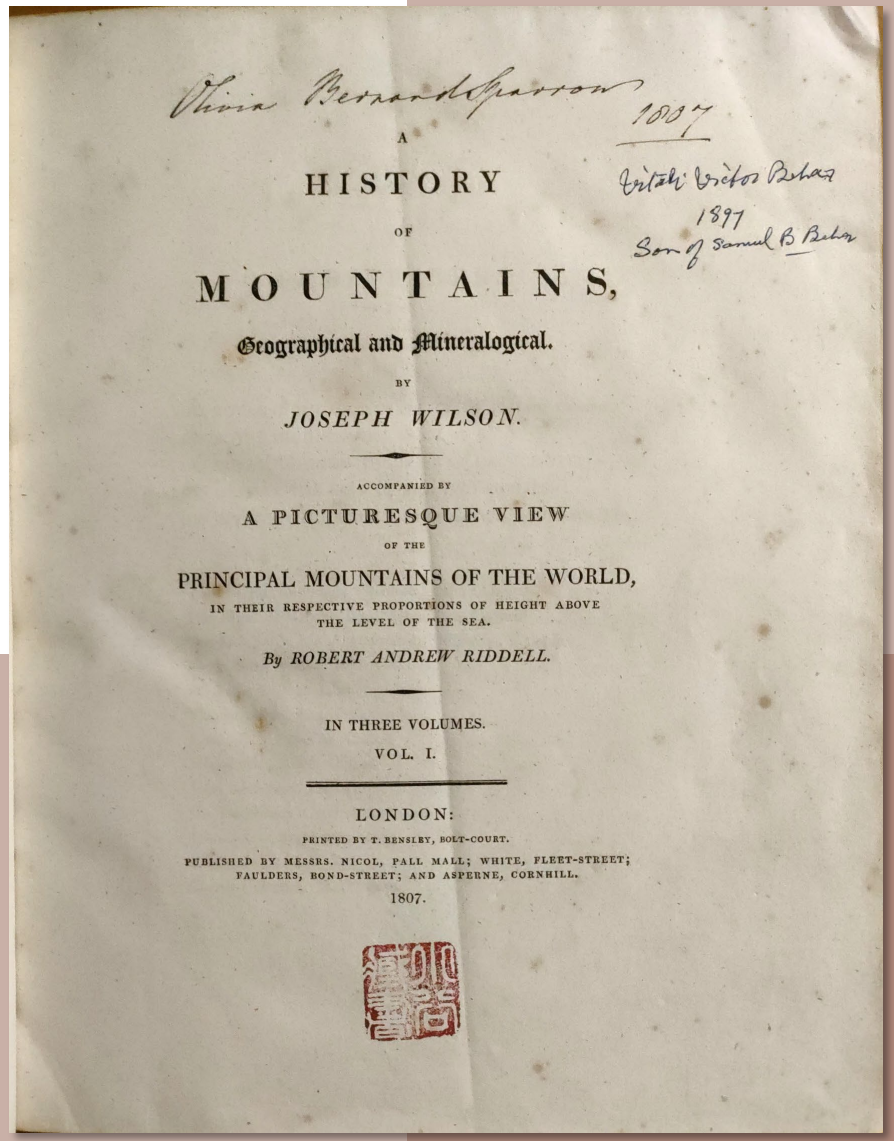
展示資料No.c10

『A HISTORY of MOUNTAINS, Geographical and Mineralogical,』

Joseph Wilson
Nicol.Pall Mall,London
1807-1810
（小谷コレクション）

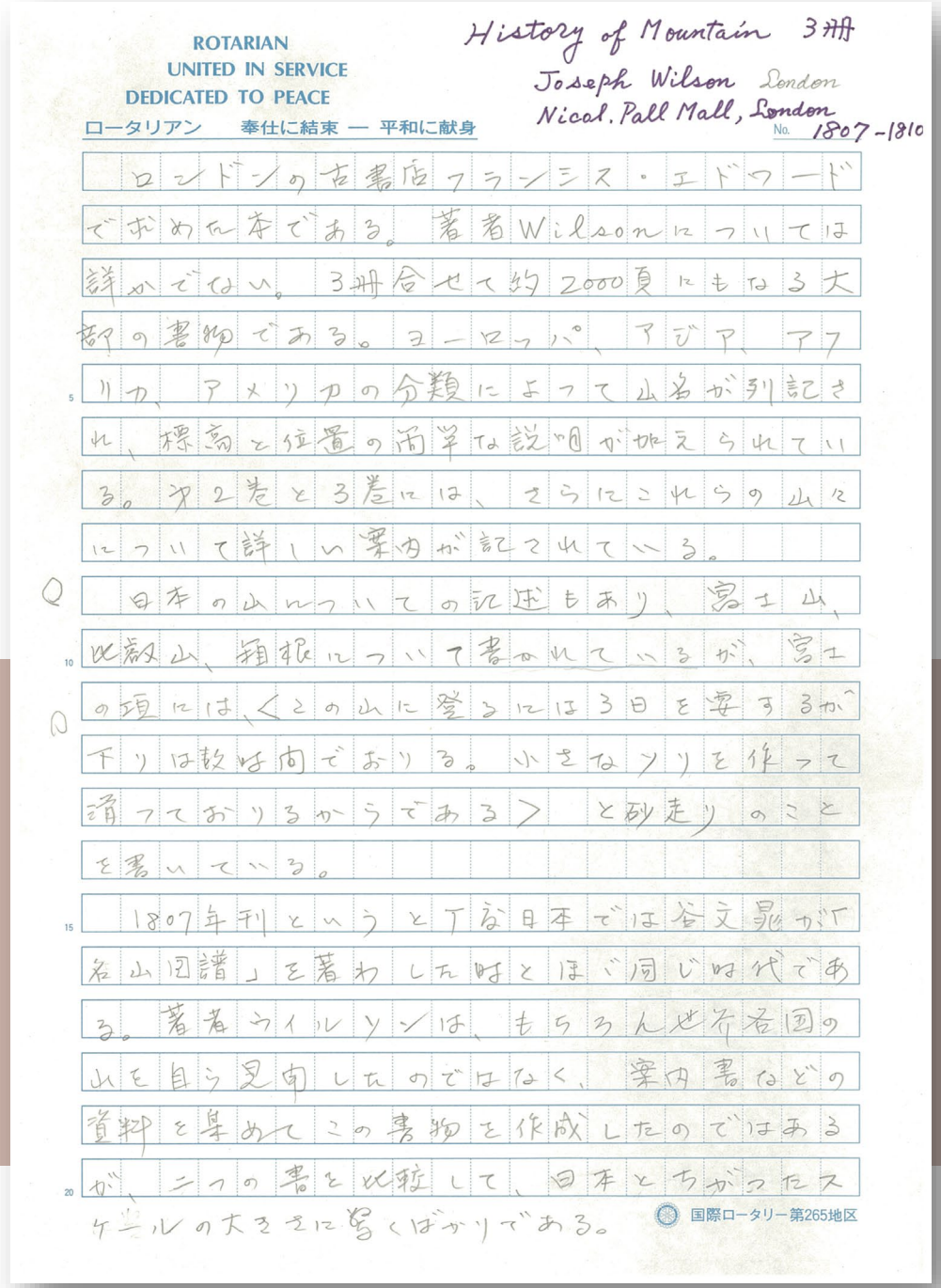
『山の歴史ー地理的・鉱物的にみた』

240×300[mm]



A
HISTORY
OF
MOUNTAINS,
Geographical and Mineralogical.
BY
JOSEPH WILSON.
ACCOMPANIED BY
A PICTURESQUE VIEW
OF THE
PRINCIPAL MOUNTAINS OF THE WORLD,
IN THEIR RESPECTIVE PROPORTIONS OF HEIGHT ABOVE THE LEVEL OF THE SEA.
By ROBERT ANDREW RIDDELL.
IN THREE VOLUMES.
VOL. I.
LONDON:
PRINTED BY T. BENSLEY, BOLT-COURT.
PUBLISHED BY MESSRS. NICOL, PALL MALL; WHITE, FLEET-STREET; FAULDERS, BOND-STREET; AND ASPERNE, CORNHILL.
1807.

展示資料No.c10 （書評：小谷隆一直筆原稿）



ROTARIAN
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE
ロータリアン　奉仕に結束 ― 平和に献身

History of Mountain 3冊
Joseph Wilson London
Nicol. Pall Mall, London
No. 1807-1810

ロンドンの古書店フランシス・エドワードでおめた本である。著者Wilsonについては詳かでない。3冊合せて約2000頁にもなる大部の書物である。ヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカの分類によって山名が列記され、標高と位置の簡単な説明が加えられている。第2巻と3巻には、さらにこれらの山々について詳しい案内が記されている。

日本の山についての記述もあり、富士山、比叡山、箱根について書かれているが、富士の項には、<この山に登るには3日を要するが下りは数時間でおりる。小さなソリを使って滑っておりるからである> と砂走りのことを書いている。

1807年刊というと丁度日本では谷文晁が「名山図譜」を著わした時とほぼ同じ時代である。著者ウィルソンは、もちろん世界各国の山を自ら見聞したのではなく、案内書などの資料を集めてこの書物を作成したのではあるが、二つの書を比較して、日本とちがったスケールの大きさに驚くばかりである。

国際ロータリー第265地区

『A History of Mountains』
Joseph Wilson

小谷書評

ロンドンの古書店エドワード・フランシスで求めた本である。著者Wilsonについては詳かでない。3冊合わせて約2000頁にもなる大部の書物である。ヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカの分類によって山名が列記され、標高と位置の簡単な説明が加えられている。第2巻と3巻には、さらにこれらの山々について詳しい案内が記されている。

日本の山についての記述もあり、富士山、比叡山、箱根について書かれているが、富士の項には、 <この山に登るには3日を要するが下りは数時間でおりる。小さなソリを使って滑っておりるからである> と砂走りのことを書いている。

1807年刊というと丁度日本では谷文晁が「名山図譜」を著わした時とほぼ同じ時代である。著者ウィルソンはもちろん世界各国の山を自ら見聞したのではなく、案内書などの資料を集めてこの書物を作成したのではあるが、二つの書を比較して、日本とちがったスケールの大きさに驚くばかりである。

山岳名著100選

『山なみ帖』「ロンドンで求めた山の本」の中に「山の歴史―地理的・鉱物的にみた」の題目で本書を紹介している。

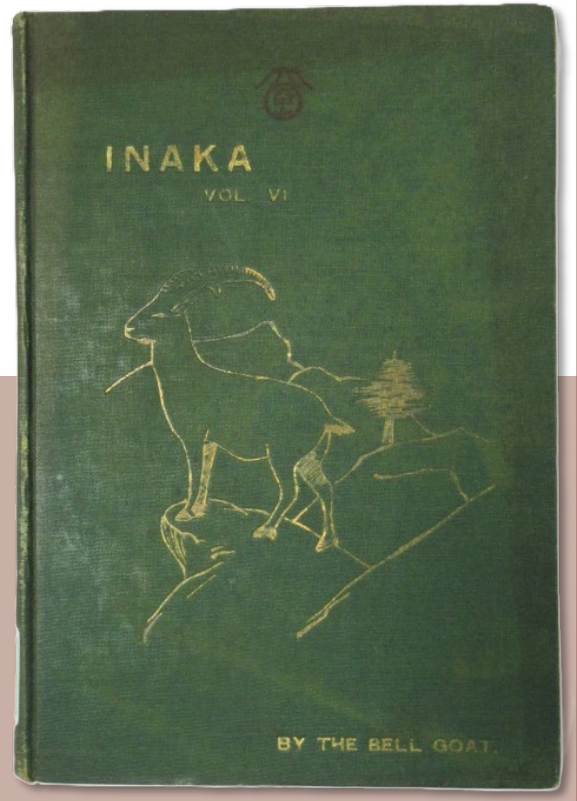
展示資料No.cll

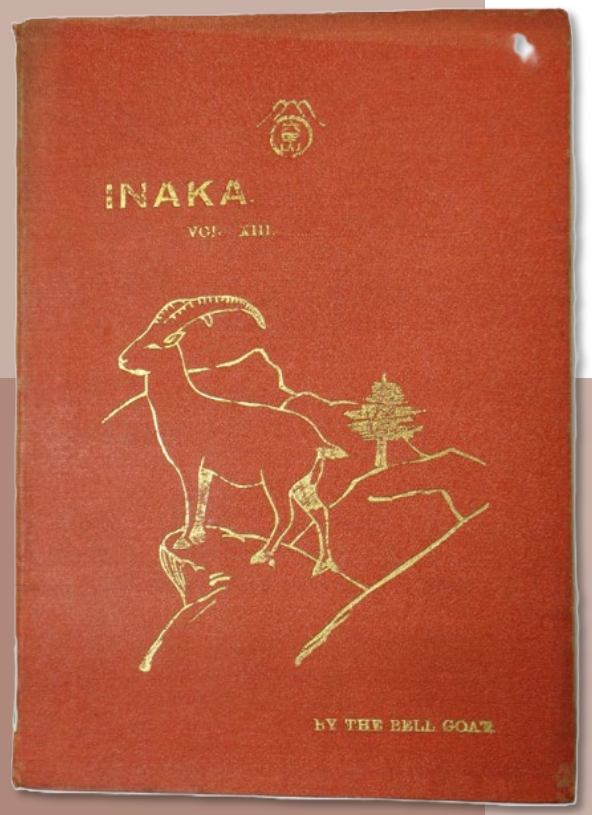
『Inaka, or,
Reminiscences of Rokkosan and other rocks』

H.E.DAUNT.
Kobe Herald 1915-1924

（小谷コレクション）

『INAKA』





170×230[mm]

『Inaka, or, Reminiscences of Rokkosan and other rocks』 H.E.DAUNT.

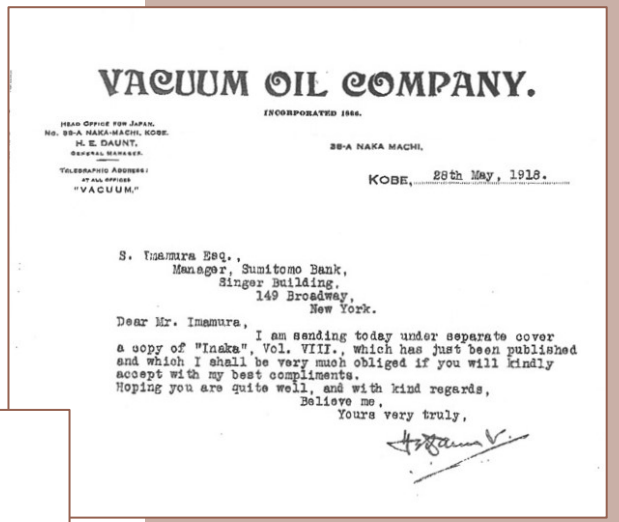
『INAKA』

（前略）
最後に取り上げたいのは『INAKA』である。一九一五年（大正四年）に発刊され、二四年に終刊となっている。その間に十八冊出版されたが、神戸付近に居住している外国人でゴルフと山登りを好む人たちが寄稿してつくられたそのグループの会報で、全巻英文でつづられている。
リーダーはドーントという英国紳士で、グループの人たちは、神戸マウンテン・ゴート（山羊）クラブと称し、登山は六甲付近にとどまらず日本アルプス全域に及んでいる。挿入されている写真も鮮明で、当時の風俗を偲ぶためにも貴重な書物である。わずか一五九部しか発行されなかったため、十八冊揃って保存されているのはきわめて珍しいといわれ、私が所蔵しているのは、かつて住友本社の中心人物であった今村幸男氏の旧蔵本で、氏はドーント氏と親交があったとのことである。
（後略）

『山なみ帖その後』「山の書物の楽しみ」より

『INAKA』

ドーント氏から
今村幸男氏への手紙



VACUUM OIL COMPANY.

INCORPORATED 1866.

HEAD OFFICE FOR JAPAN.
No. 38-A NAKA-MACHI, KOBE.
H. E. DAUNT.
GENERAL MANAGER.

TELEGRAPHIC ADDRESS:
AT ALL OFFICES
"VACUUM."

38-A NAKA MACHI.

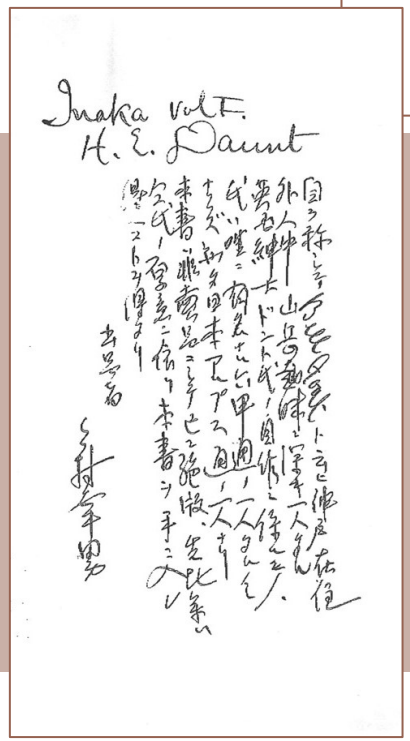
KOBE, 28th May, 1918.

S. Imamura Esq.,
Manager, Sumitomo Bank,
Singer Building,
149 Broadway,
New York.

Dear Mr. Imamura,

I am sending today under separate cover a copy of "Inaka", Vol. VIII., which has just been published and which I shall be very much obliged if you will kindly accept with my best compliments.
Hoping you are quite well, and with kind regards,
Believe me,
Yours very truly,

H.D.DAUNT.
1918年5月28日



Inaka vol. I.
H. E. Daunt

今村幸男氏の
『INAKA』書評（複製）

手紙及び書評（複製）は小谷達雄氏 蔵